

第2分科会

【演 題 等】「児童が安心して成長できる SSR のあり方」
～「人とのつながり」「安心できる環境づくり」「周囲の理解」を
軸にした SSR の充実に向けた取組を通して～

【講演・発表者】

滋賀県総合教育センター

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課児童生徒室

研修指導主事	唐崎 展之
研究員	田中 彰
主 査	藤本 友紀
指導主事	有馬 純一郎

【座長・司会】阿形 恒秀（関西地区研究会副会長）

・発表概要

児童が安心して成長できるSSRのあり方について、「人とのつながり」「安心できる環境づくり」「周囲の理解」の三つの要素を軸に支援を充実させることで、子どもの社会的自立に向け、SSRが児童にとって安心して成長できる場となることを目指した。今回は、滋賀県のSSRについて以下のように発表した。

- 1 滋賀県のSSRについて
 - (1) SSRの設置率と課題について
 - (2) SSRの効果について
- 2 滋賀県総合教育センターのSSR研究について
 - (1) 研究の内容
 - (2) 成果と課題



・発表要旨

- 1 滋賀県のSSRについて
 - (1) SSRの設置率と課題について
 - ① 滋賀県のSSR設置率は都道府県別では全国で一番高い。
 - ② 課題としては、人的な配置が不足していること。
 - (2) SSRの効果について
 - ① SSRで指導後の児童の好転率は82.5%と高い。
- 2 滋賀県総合教育センターのSSR研究について
 - (1) 研究の内容
 - ① SSRの大前提は「安心できる居場所であること」「児童の思いに寄り添うこと」「学びの場であり、自己決定する力をはぐくむ場」であり、従来の別室との違いを確認。
 - ② 研究について基本的な考え方を「人とのつながり」「安心できる環境づくり」そして「周囲の理解」とし、SSRが成長できる居場所の一つとなるよう研究した。
 - ③ 「人とのつながり」について、青空ノート（気分を数値化して記録）から、コミュニケーションを通して内面的な変化をみとった。
 - ④ 「安心できる環境づくり」について、休憩できる畳スペースを作るなど、児童の状態に応じた学びの空間や手法を工夫した。

- ⑤ 「周囲の理解」として、教職員研修で、SSRについて学ぶ場を作成し、目的や意義について認識する機会とした。

(2) 成果

- ① 「人とのつながり」について、児童が安心して指導者に自分の思いを伝えることができるようになったり、安心感から登校日数が増えたりした。
- ② 「安心できる環境づくり」について、児童自身が受け入れられている安心感から、落ち着いて学校生活を送ることができたり、コミュニケーションを図ろうとする機会が増えたりした。
- ③ 「周囲の理解」について、教職員への啓発、児童への周知、そして職員研修を通してSSRの目的や意義について認識したことによって、SSRの存在そのものが安心感につながることができ、SSRがあるから学校に行くことができた。

(3) 課題

- ① 継続して運営できる校内体制としてのSSRを確立することや、SSRの取組の普及と市町や中学校区における支援体制の構築を行うことが課題。

・質疑応答等の概要

【グループ協議からの意見】

- 1 支援員が複数の学校に行くが、人が変わっても子どもは問題なく交流している。人員確保に課題があると聞くと、こういった運用の仕方一つ。
- 2 支援員の予算を確保しているが人を見つからないため、空いている教員の時間を調整していることが課題。また、学校復帰を目的としない等、家庭も子どもも利用する目的を共通理解して運用することが大事。
- 3 自治体によって予算や人員配置が大きく異なる。
- 4 教育委員会の指導ではなく、学校が独自にSSRの運用を開始したが、教員の思いに差があったり、子どものルールを作っていなかったりしたために破綻。
- 5 県教育委員会が中心となり、4月にガイドブック等を活用して管理職に説明しているため、理解の広がりはある。

Q SSRの週予定や、子どもの自己決定のやり方について教えてほしい。

A 担任の負担が大きくなるよう必ず作成する週予定を活用。自己決定については、SSRに行く・行かないを自分で決めることができれば花丸をつけ、視覚的にも認めている。

・記録者雑感

滋賀県のSSR研究について実践報告をするなかで、参加者からも様々な御意見をいただくとともに、多様な考えを共有できる貴重な時間となった。人員の確保や教職員の理解など課題も様々あるが、子どもが安心して成長できるSSRの在り方について研究することの意義を感じた。